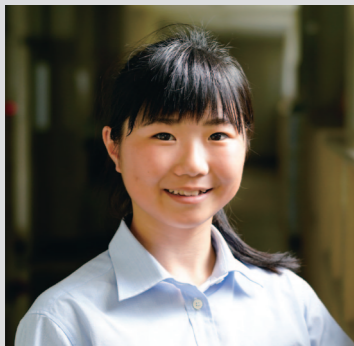


トップアスリートに聞く②



岩淵 麗楽さん

●Profile 東山町出身。4歳からスノーボードを始める。2013年に全日本スキー連盟のナショナルチーム強化選手に指定。平昌オリンピックへの出場を目指している。好きな食べ物はおぼろや。

みんなに応援される選手を目指したい

両親の影響で4歳からスノーボードを始めました。小学生の頃から「大会で勝ちたい」という思いが強くなりました。でも、高学年の頃、何をやってもうまくいかない時期がありました。つらくても、やめずに続けたことが今につながっています。

私が目指すのは、あいさつや感謝の気持ちをしっかり示すことができる選手。きちんとした振る舞いができて、皆さんに応援してもらえる選手を目指したいです。

【主な大会成績】

- 第23回全日本スキー選手権ビッグエア (FIS) スノーボード (2017年3月) …3位
- 第23回全日本スキー選手権スロープスタイル (FIS) スノーボード (17年3月) …優勝
- 第23回世界ジュニア選手権 (17年3月) …スロープスタイル・ビッグエア2種目で準優勝

「頑張りたくない選手が、好きなだけ頑張れる環境が必要なんです」。三連覇を成し遂げた一関工業弓道部を率いる本望智英監督は静かに語った。「弓道は身体能力の差異が少ない競技。結果は選手の気持ち一つ。選手の自主性を信じ、個性を伸ばす指導を心掛けています」と話し、「選手の自主性が結果を導く」と強調付けた。スノーボードでの強化指定選手に選ばれた岩淵麗楽さんも次のように言う。「両親やコーチに言われたことをこなすだけでは成長しない。自分に何か必要かを考えることが大切だと気付きました」

陸上競技個人

全国に向かって跳べ、走れ

第72回東北高等学校陸上競技大会は6月16日から19日、山形県天童市のNDソフスタジアム山形で行われた。

男子三段跳では千葉樹君 (千厩高3年) が全身のパネを生かした跳躍をみせ、14m 44cmで2位と健闘した。

男子5000mでは小倉朝陽君 (一関学院2年) が、向かい風をもとめせず14分41秒48で6位となった。

2人は7月29日から山形県天童市で開催される全国高等学校総合体育大会に出場する。



千葉 樹

Chiba Itsuki

千厩高・3年

男子三段跳 2位

東北大会は納得のいく結果ではなかった。課題を見直しながら自分のスタイルに合った技術を身につけたい。全国大会では入賞を目指します。



小倉 朝陽

Ogura Asahi

一関学院・2年

男子5000m 6位

全国の目標は決勝進出。長距離走は競技中に戦略を練ることができます。スピードとスタミナを身に付け、外国人選手の速いペースにくらいつきたいです。



体操競技個人

美しい技で全国に挑む

第69回県高校総体体操競技大会は5月27日、盛岡市で行われた。一関学院の新坂玲奈さんは脚力の強さを生かし、跳馬で4位。個人総合で5位入賞を果たし、山形県酒田市で8月1日から行われるインターハイに出場する。



新坂 玲奈

Shinsaka Reina

一関学院・3年

女子体操 5位

父の影響で始めた体操競技。インターハイが最後の大会になります。県代表としての誇りを胸に、美しい演技をしたいです。技を安定させ、完成度を高めて本番に挑みます。



一関工業弓道部  
3年連続6回目の優勝を飾る

第69回県高総体の弓道競技は5月26日から28日、盛岡市で行われた。一関工業弓道部は、団体戦決勝リーグで福岡工、盛岡市立、盛岡一高をそれぞれ下し、3年連続6回目の優勝を飾った。本望智英監督は「今年の選手からは入賞への気持ちが強く感じられる。一本一本を大切に引かせたい」と選手たちの活躍を期待している。インターハイは8月1日から仙台市で行われる。



岡本 翔

Okamoto Sho

一関工業・2年

男子弓道 優勝

普段以上の実力を出し、20射のうち19射を中(あ)てることができました。集中力に波がある点を克服し、ベスト8を狙います。来年につながる大会にしたいです。



佐藤 龍弥

Sato Tatsuya

一関工業・3年

男子弓道 2位

勝ちを意識せず、集中力を切らさないようだけを見ました。集中力を高める事を意識して日々練習しています。最後は自分との戦い。自信をもって挑みます。

2. 獅子奮迅

Chapter.2

一関学院  
バスケットボール部  
3年ぶり6回目の優勝

第69回県高校総体バスケットボール女子の決勝戦は5月25日、奥州市で行われ、一関学院が盛岡白百合を下し、3年ぶり6回目の優勝を果たした。「試合の流れは悪かった。でも、チーム全員で乗り越えた。選手全員が活躍した試合だった」とキャプテンの菅原成美(3年)さんは話す。

7月28日から福島市で行われるインターハイの初戦は新潟県の開志国際。全国ベスト8の常連校が相手だ。守りの連携、主導権を握った後の攻め方など、課題を克服して勝負に挑む。山田繁監督は「練習どおりの力を発揮できれば勝算はある」ときっぱり。全国での活躍を期待している。



優れた選手を育む「頑張れる環境」とは

「頑張りたくない選手が、好きなだけ頑張れる環境が必要なんです」。三連覇を成し遂げた一関工業弓道部を率いる本望智英監督は静かに語った。「弓道は身体能力の差異が少ない競技。結果は選手の気持ち一つ。選手の自主性を信じ、個性を伸ばす指導を心掛けています」と話し、「選手の自主性が結果を導く」と強調付けた。スノーボードでの強化指定選手に選ばれた岩淵麗楽さんも次のように言う。「両親やコーチに言われたことをこなすだけでは成長しない。自分に何か必要かを考えることが大切だと気付きました」

「両親やコーチに言われたことをこなすだけでは成長しない。自分に何か必要かを考えることが大切だと気付きました」

「頑張りたくない選手が、好きなだけ頑張れる環境が必要なんです」。三連覇を成し遂げた一関工業弓道部を率いる本望智英監督は静かに語った。「弓道は身体能力の差異が少ない競技。結果は選手の気持ち一つ。選手の自主性を信じ、個性を伸ばす指導を心掛けています」と話し、「選手の自主性が結果を導く」と強調付けた。スノーボードでの強化指定選手に選ばれた岩淵麗楽さんも次のように言う。「両親やコーチに言われたことをこなすだけでは成長しない。自分に何か必要かを考えることが大切だと気付きました」